

ヨコハマ市民まち普請事業

第一次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	Co-coya復活プロジェクト実行委員会
現在の主な活動 内容・活動実績	地権者およびCo-coyaを使ってくださる可能性のある作家、個人事業主、地域の人たちとプランについて意見交換しながら設計に落とし込む作業をしている。また、既に活用しているシェアオフィスの管理運営。
提案場所	緑区中山5丁目
提案名 (25字以内)	「水」と「火」のある地域のほっとステーション
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	3年前に空き家となった住宅街にある昭和の文化住宅をリノベーションし、2階をシェアオフィスとして活用中である。1階の道路に面したスペースを、外とつながる空間として土間仕上げにし、地域の人が気軽に出入りできるようにする。既存の井戸を復活させ、薪ストーブ・薪風呂を設置して、いざというときには「水」と「火」を提供できる地域の防災拠点として活用したい。 また、リサイクル可能な建築資材を使用し、解体時にゴミが少なくなる素材活用や、草屋根など自然エネルギーを活用した空間としたい。 <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約920万円</p>
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	普段は、月一の「てしごとマルシェ753市」への会場提供や、カフェやギャラリー、ワークショップスペースなどオープンな場づくりをして、暮らしのそばにある近所の人々の顔が見えるコミュニティサロニックに活用する。災害時にはトイレ提供や炊き出し、薪風呂や薪ストーブで暖をとったりできるような拠点として活用する。暮らすことや働くこと、作ることが見え、それらのつながりが感じられる取り組みを行う。
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	空き地や公園がない住宅街。古くからの住人と新しく分譲された家に住む子育て世代の家族が混じり合っている地域。約7年の地権者との協働によって、個性ある個人事業主が移り住んできている。ただ、同じ世代ごとの交流はあっても、世代を超えた交流は少ないと感じる。災害時に人が集まったり助け合えたりする場として、普段から世代横断のコミュニケーションが生まれる場づくりをする交流拠点の中に、防災拠点的な役割を持つ施設があるとよいと感じるため。古くからある住宅で昔の生活インフラがまだ残っているので、利活用したい。暮らし方や働き方を見直すきっかけとしても一石を投じたい。

<p>目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいたと考えますか）</p>	<p>いざという時に地域の住人たちと協力しあえる関係性があって、そこに行けば誰かがいてなんとなく話をすることで地域の情報交換ができるインフォメーションセンターとしたい。さらに最低限のインフラを備えた装置を持つことで、レジリエンスの高い地域になること。余白や柔軟性があって、何よりも安心感のある地域を目指す。</p>
<p>整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<p>タタキや土壁、ガーデニング等のイベントやワークショップを開催する際、地域の多世代交流拠点やカフェなどと連携して人を集めることができる。 プロジェクトメンバーに設計士がいる。 クラウドファンディングで施設の周知や資金の確保に努める。</p>
<p>運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<p>多世代交流拠点「フラットガーデン」や文化交流施設の「なごみ邸」、「季楽荘」、「菌カフェ753」など、徒歩圏内にある施設と密に連携がとれる。 月一マルシェ「753市」との連携。 それぞれが持つ人のスキル、機械設備や道具、資材など、シェアしあえる関係性ができている。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください。</p>	<p>「水」と「火」を提供できる場が住宅街の中にある事は、いざというときに行政に頼らずとも数日自活できる備えのある安心感となり、地域の人たちにも大きな価値ある場所となるはずである。 マルシェの開催を通して、魅力的な個人事業主とのつながりがある。地権者と住民とがお互いに主体として関わる関係性ができている。地域に必要な機能として、このタイミングでエリアの中心に位置するような場所に、井戸があり十分な広さを持つ空き家を整備できるチャンスはまたとない機会と捉えている。</p>

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
地権者	プランを説明し了承を得て、プロジェクトに参画していただくことになりました。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。



現況写真

「水」と「火」のある地域のほっとステーション



「水」と「火」のある地域のほっとステーション

【価値観】を見える化する

現在、2階部分をシェアオフィスとして活用しているが住宅というプライバシーを優先する建物を活用しているため空間の性質的に外へ開きにくい。一階のエントランス部分に手を加え、外から見える化することで直接の交流は持たなくても、意識的に見せていくことで認知度を高めていくことができる。

利用者は手しごとをする職人や作家で、手仕事工房が集まる家。マルシェなどで場所開きしていくことで子供たちにも、デスクワークだけではない様々な仕事があることを知ってもらえる場所。

～いざという時、頼りになる場所～

できるだけ電気に頼らず、自然循環を意識した建物とする。

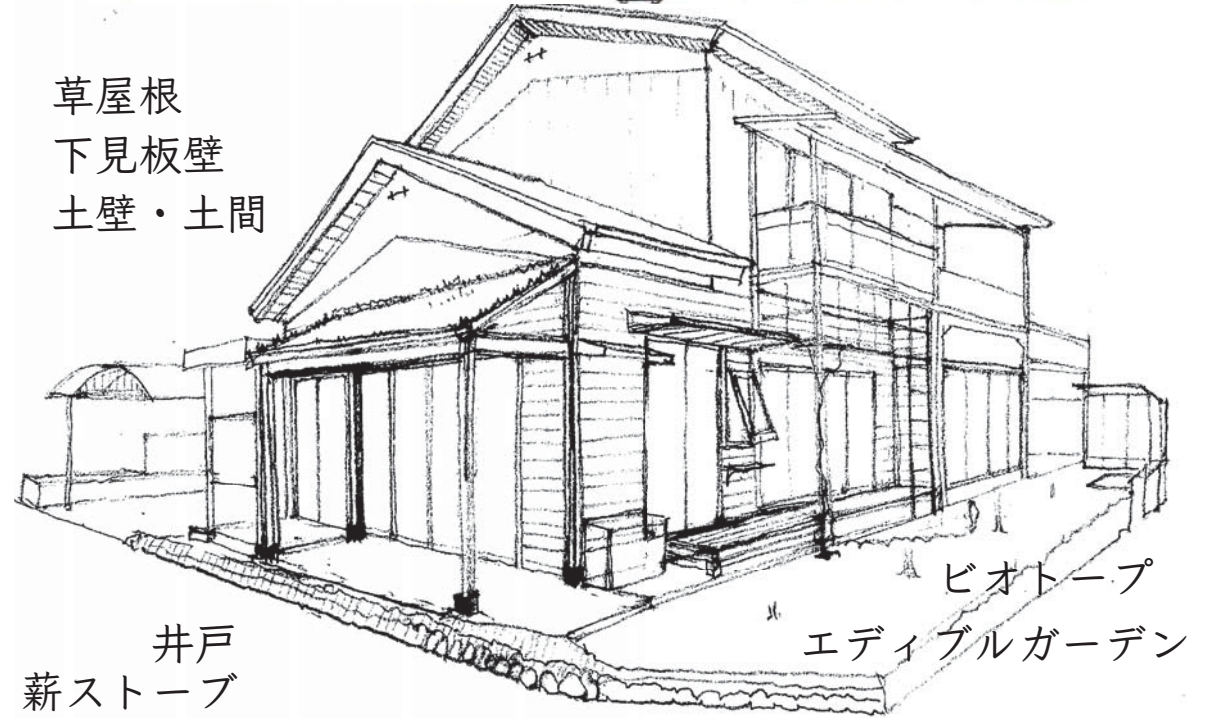
井戸、薪ストーブを設置することで、暮らしに必要な

「火」と「水」を生み出せる場所となる。

災害時の炊き出しなど、何かのときの供給場所とできる。



草屋根
下見板壁
土壁・土間



想定施設

- 1F
- オープンオフィス (土間スペース)
- シェア工房 (設計事務所・デザイン事務所・ガラス、陶芸、画家のアトリエ)
- 厨房 (シェアキッチン)
- レンタルスペース1 (営業許可を取得しレンタルカフェとしても可動する)
- レンタルスペース2 (個室)
- 浴室
- トイレ
- ミニキッチン

- 2F
- シェアオフィス (デスクワーク中心)
- トイレ
- 給湯スペース
- ・
- 独立型住居スペース (キッチン、洗面)

横浜市緑区にある中山という町の、さらに静かでちいさな一角で、
「753」という名を持つ、ひとつの家族のような、チームのようなコミュニティがあります。
はじめは界限の土地を持つ大家さんが、空き家になったおうちを買い戻し、みんなに場を開放したことから。
そこには農業をするシェフや、醤油づくりをする人や、建築家、自主保育の推奨者などなど、
外の町から「何かにおぞ」とみるみる集まり、自然発生的にカフェを開いたり、マルシェを催したり。
自分たちの暮らしを自分たちでつくり、楽しみ、分かちあい、つながっていく。
芽が出てふくらんで、長くちょっとずつ、大きな木のようにのびのび伸びてく、もっかまっ最中なのです

1

なごみ邸



趣味を楽しんだり

和室、洋室それぞれ3つの異なる趣の部屋を使い、発表会、研修、演奏会などを行う場。

2

菌カフェ753



食と向きあったり

自家菜園の野菜を使い、発酵を活かした食事を提案。おいしい食への気づきを促す場。

3

楽し舎



教室を開いたり

工芸、音楽、書画、料理、お花など、先生として定期教室を開きたい人のための場。

4

753市

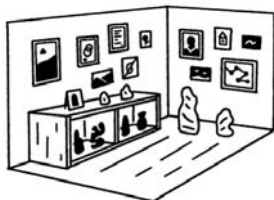


市に出店したり

毎月第3日曜日に開催される「てしごと」がテーマのマルシェ。自己表現と交流の場。

5

Gallery N.



アートに触れたり

個人からちいさな規模のグループまで、作品の展示やパーティーなどに利用できる場。

6

季楽荘



チャレンジしたり

週に3回、金土日のみオープンする“まがりカフェ”など、いろいろチャレンジできる場。

7

シェアハウス



共同生活をしたり

4世帯がここで暮らしながら、時にアトリエとして、時にスタジオとしても機能する場。

8

Co-coya



仕事をしたり

フリーランスのクリエイター、場所を選ばず仕事をするたちが集い、働く場。

9

Park753+AIRSTREAM



外で休憩したり

ミニキッチン、カウンター付きのエアストリームを中心に、クローバーのグラウンドが広がる憩いの場。